中西美沙子 [教育コーディネーター]

大丈夫よ! お母さん!

子育てをたのしんで　～ この子、だれの子 ～

詩人のまどみちおさんに、「ぞうさん」という、誰でも知っている詩があります。昔、NHKラジオに「歌のおばさん」という番組がありました。その中に、まどさんの「ぞうさん」があったのです。

ぞうさん／ぞうさん／おはなが
ながいのね／そうよ／かあさんも　ながいのよ／ぞうさん／ぞうさん／だあれが　すきなの／あのね／かあさんが　すきなのよ

阪田寛夫さんの書いた『まどさんのうた』という本の中に、この詩のことが興味深く書かれています。阪田さんは、この詩には「意味」などないと思っていました。ところが近年、この詩の解釈があれこれ言われるようになりました。「目の色が違っても、髪の色が違っても
みんな仲よくしよう」と、外見や考えかたの違いがあっても仲よくしようという意味の詩ではと、考えられるようになったのです。しかし阪田さんは、腑に落ちませんでした。直接まどさんに訊ねました。まどさんは、「目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから　仲よくしようよと言いたい」と話したそうです。ぞうは、鼻が長いことを友だちにからかわれても、それを誇りに思っています。だから同じように鼻の長いお母さんが、大好きなのです。まどさんの凄いところは、自分の生い立ちに誇りを持つだけでなく、違いがあるからこそ、誰もが共に生きられるのだと考えているところです。

この頃、「違うこと」が悪いと考える方々をよく見かけます。子どもの将来を一つの社会的なパターンにはめようとする親御さんが増えているようです。子どもにはそれぞれ良いところがあります。活発な子ども。静かだが考え深い子。やさしい子や強い子など、その子の特徴や違いがあります。その違いを見つけ出して、良い方向に育てるのが、親の楽しみでもありますね。幼児虐待のニュースは毎日のように流れます。子どもは未熟な生きもの。言葉で物事を分からせるほど十分には成長していません。また子どもは、大人の言いなりにはなりません。泣いたり騒いだりします。したくないことは、なかなかしようとしません。「待つこと」。これが出来る親は大丈夫です。子どもが嫌がることには理由があります。その理由を「待つこと」で考えてみましょう。幼児虐待は「待てない親」のエゴが起こすのではないでしょうか。「待てない親」には、自分の子どもの良いところが見えているのかな、と感じます。悪いところは、見えやすいものですが。それは自分の子どもを「理想の誰かさんの子ども」と比較しているからかも知れませんね。

ぞうさんの鼻は、長い。それが小ぞうは嬉しくてたまりません。まどさんの詩には、親子の関係の柔らかな表現があります。

成績の悪い子や言うことを聞かない子どもを、「自分の子ではない」と平気で言う親がいます。そこには、共に過ごした時間の重みが見えません。「慈しむこと」の原点を忘れてしまったように感じるのです。

今日も、幼稚園のどこかで「ぞうさん」の歌が流れていることでしょう。

中西美沙子プロフィール

教育コーディネーター。執筆・講演活動の傍ら、文章教室「スコーレ」・画廊「キューブ・ブルー」（浜松市中区元城町）を主宰。文章教室「スコーレ」では、小学生から大人まで幅広い層を対象に、ただ書き方を教えるのではなく、「この時代をどのように生きるか」を見つめさせるような試みをしています。お問い合わせは、TEL.053-456-3770

ホームページは　中西美沙子　検索

著書の「ピアニシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載した人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）

＝お求めは浜松市内の谷島屋で＝